

ポイント

- 自滅的な行動の背景には目先の利益の優先
- 将来のルーズな選択に無自覚なほど損失大
- 行動経済学の活用で良い選択への誘導可能

池田 新介 大阪大学教授

借金重ねてモ、を買った。こやめられぬい、食べ
利益に長い目で見れば自
滅的な選択の多きが、「双曲
割引」とか「現在バイアス偏
り」と呼ばれる選択上のバ
イアスと関連していることが
行動経済学によって解明され
ている。双曲割引とは、間近
の選択はよく、その時々利益
を優先して、よりせっかちな
選択をする傾向をいう。

双曲的な人は、立派な蓄積
や損生の計画を立てても、実

双曲割引が過小貯蓄や不損
生を引き起こして大きな損失
をもたらすのは、とりわけそ
の人が「単純な場合」である。
理由は2つある。第一に、「単
純」な人は、蓄積や節制の実

裏生…

政策余地

でも「単純」な部分のある借り手は、自分のデフォルト（債務不履行）リスクを甘く見積



現在と将来で異なる忍耐力を持つ「二重人格者」であること
を自覚し、将来のルーズな自分
がほごにしない計画を立てて
矛盾なくそれを実行する。
その結果、双曲割引の弊害は
通常、多少とも軽減される。
図は、実際に人々の行動が、
「目先の利益優先（双曲性）」

な回答者にその傾向が強い
——ことが読み取れる。

自滅選択への対処法も、主体が「賢明」か「単純」かで大きく変わる。人々が「賢明」であれば、将来のルーズな自己を拘束できるコミットメント（公約）の手段（例えば年金などの強制貯蓄）を提供し

と識別されている。

「単純」な人に「コミットメント」手段や情報を提供しても選択は改善されない。彼らの行動を改善し厚生を高めるには、何らかの介入が必要だ。行動経済学では、選択の自由を許しながら、選択の枠組みを変えてくれるだけで良い方向に誘

発医薬品をデフォルトにした例がある。服用経験者の割合は08年の17・6%から、11年の47・7%に上昇し、医療費の圧縮に役立っている。

經濟教室

「自滅選択」回避へ政策余地

の有無と「賢明」「単純」の違いで、どのように異なるかを調べたウェブアンケート（有効回答2386、2010年10月実施）の結果だ。

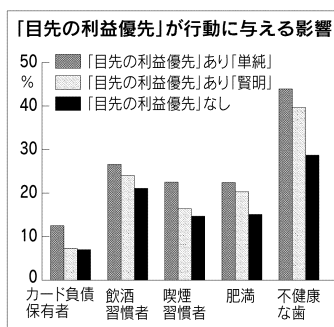
を受け取るのを1週間待つのに要求する金利」と1年後の同様の受け取りを1週間延滞するのに要求する金利」を尋ね、前者の方が高い回答者を双曲的と識別した。「単純」か「賢明」かについては、学

た食物の選択を助けられる。

しかし「賢明」な人はそう多くないという証拠もある。米国のスポーツツジム会員を調べた米カリフォルニア大学バ

なところに座るべきイスをふれる方法だ。バイアスのある選択は長期利益の方向に誘導される一方、合理的な選択者は影響を受けない。課税や取引制約など一律に網をかける従来の介入とこの点が違う。

本稿では、最近の行動経済学の知見を踏まえながら、選挙者が「賢明」か「単純」かで双曲割引の影響がどのように変わり、対処法がどう違ってゐるかにについて考えたい。



平均的な会員は月に4・3回しかジムを利用しないのに、回数券を使う場合よりもずっと高い

で実際に交尾を上げている。双曲的な人は選択の面倒を嫌って情性で選択する傾向があるので、デフォルト（初期設定）を変えることで、双曲的な選択を改善できるわけだ。

日本では処方箋の医薬品欄の書式について、08年から後

いけだ・しんすけ 57年生まれ。大阪大経済学博士。専門はマクロ理論。